

学校目標		重点目標(中期長期的目標)		総合評価				
「剛健質実」 ～思いやりのある自立した生徒～		授業を学校づくりの根幹と考える学校		成果と課題			評価	改善策・向上策
		今年度の重点目標						
		学校教育目標		「ひとり」を大切に する学校	一人ひとりに合った環境で学ぶ・生活する学校 ■一人ひとりに、いつでもどこかに、最適で安心できる「居場所」がある学校 ■一人ひとりが自ら考えた「家庭学習」に取り組める学校	・多くの先生がかかわりあいながら、一人の生徒を大切に作る体制が整っていたように感じる。それぞれの場所で安心して過ごせた。 ・家庭学習に関しては、生徒一人ひとりの主体性を重視した指導が不十分で、決めたものを課題として与えることが多くなってしまったことが反省点である。	A b	・生徒が必要感を持ち、主体的に学びに向かうことができるような体制づくりについて引き続き多くの職員で研究していく。
〇こつこつ勉強しよう。：自分の思いを伝えながら納得するまで学ぼうとする姿 〇厳しく鍛えよう。：先入観を捨て、互いを大切にしながら、集団を高めようとする姿。 〇良い友だちをつくろう。：自己を厳しく鍛え、切磋琢磨しながら成長しようとする姿。		指導する前に、一人ひとりの理解に努める職員集団 ■一人ひとりの理解に努め、共通理解を図る職員 ■一人ひとりに寄り添い、思いに共感し、勇気づける職員	・生徒が安心して過ごせるように関係づくりに努めていた。生徒がどういう思いを持っているのか、本人、保護者、関わる職員(東部中の職員も含め)と丁寧に関わりながら同じ方向を向いて進めたのが最大の成果。 ・言葉掛けを行うよう心がけたが、気持ちが不安定な生徒と話す際、何を言えばいいかわからないことが多々あり、十分な指導、サポートが出来なかった。	A a	・学年主任、生徒指導主事、特支Co等に、生徒との関わりを相談しながら、指導の方法について理解を深めていきたい。 ・学校として、または担任として、生徒に願う姿を明確にもち、意識的に共有していく。一人で抱えず、相談したり、任せられるところは他の職員に任せたりし、チームで当たる。			

領域	種別	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教	教育課程	学び合いの質を高める	〇「学び合い」が必要な場面設定の工夫(導入・追究・まとめ)をしたか。 〇4つの「K」(比べる・検討する・関連付ける・見方を変える)を意識した学び合いの場面を授業の中に位置付けようとしたか。	・4Kを意識した授業(特に比べる)を意図的に仕組んだ。発電方法による環境面・経済面・利便性などを比べながらより良いエネルギーミクスについて考えた。ペア、グループワークを積極的に取り入れ、生徒同士で学び合う機会を作った。 ・追究の場面では、答えのみでなく過程を共有したり、一緒に考えたりする時間をとるようにした。教科の特性上、前回のものと比較したり、関連付けて考えたりすることも多いので学び合いの際は意識した。 ・家庭科と体育科で教科横断的な授業に挑戦した。チーム内で話し合いをしたくなるような環境づくり(導入での課題の映像を視聴、ゲーム記録を基にした振り返り)を心がけた。	B b	・引き続き4Kを意識した授業を意図的に仕組んでいく。 ・ペアやグループでの学び合いから、クラス全員での学び合いを促進できるよう、ICTも効果的に活用していく。 ・単元の流れを意識した学習ができるように計画をしっかりと立てる。 ・教科横断的な授業については、まだまだ実践例が少なく、内容も研究されていないので、来年度も引き続き提案、実践していきたい。
		ICT機器の活用	〇授業の中でICTを積極的に活用したか。 〇ICTを活用した家庭学習を取り入れたか。			
育	学習指導	自己表現力の育成	〇表現したくなるような課題を追究しているか。 〇表現力を高めるための手だて(言語活動、グループ学習、学び合い)の工夫ができたか。 〇ICT機器を活用して、生徒の表現力を引き出したり伸ばしたりすることができたか。	・解法や理由を言葉で説明する時間を設けるようにした。学習カードの書き方、振り返りの仕方を授業の中で扱った。 ・生徒が自分の頭の中で文を作り話すような指導が不十分だった。small talkはできるだけ、生徒の興味関心の高い内容を設定するようにし、会話活動を積極的に取り入れた。	B b	・さらに必要感のある「学び合い」になるような、学習問題・学習課題を設定する。聞く活動と話す活動は、文字情報をできるだけ使わないように改善したい。
		自ら考えて取り組む家庭学習の実践	〇一人ひとりに寄り添い学習計画立案の支援をしたり、評価したりできたか。 〇生徒が必要感をもって家庭学習に取り組めるような工夫をしたか。			
部活動	部活動	目標と規律のある活動	〇具体的な目標をもち意欲的に活動するよう指導できたか。 〇時間や学校のきまりを守り、活動するよう指導(「時を守り、場を清め、礼を尽くす」指導)ができたか。	・具体的に目標を設定し、技能向上以上に、「心」の成長を大切に指導した。 ・副顧問として生徒の様子、部の様子を見守りながら、サポートすることができた。 ・部によって下校時刻が守れていない。特に延長部活動の時間が守れていない。	B a	・感情的な指導にならないよう、指導者自身のアンガーマネジメントを適切に行っていく。
		活動時間の設定	〇スポーツ文化活動運営委員会の活動が有効に働いているか。 〇部活動強化月間、夏期と冬期の日課、朝部活の廃止、週一休養日の設定、延長部活の運営は適切であったか。			
生徒指導	生徒指導	課題に主体的に取り組む生徒の育成	〇規律ある学校づくり(生徒会3本柱活動)に関して問題解決ができるよう指導の工夫ができたか。(時間、給食、清掃) 〇いじめ・仲間外れしてさびしい思いをすることがない学校を作ろうとする生徒の意識を高める指導ができたか。(西中人権宣言の趣旨を活かして) 〇自分の将来に夢をもち、その実現に向かって進路を具体的に考えられる指導ができたか。	・西中人権宣言について触れる機会がもう少しあっても良いかもしれない。(縦割審議会のみ) ・徐々に三本柱に対する意識が全校で薄れてきているように感じる。将来に夢や明るい希望をもてない生徒が多いように感じる。進路について、具体的な指導はあまりできなかった。中組において、お互いが気持ちよく生活するために、仲間に対する言葉遣いや態度に気をつけるよう指導したが、まだ仲間を傷つける言動が見られる。	B b	・一度の指導に終わらないよう、継続し指導を行い、お互いを思いやる心を育てていくよう努めたい。 ・縦割り討論会に限らず人権教育月間を中心に、西中人権宣言について扱う機会を増やしていきたい。
		共通基盤に立った生徒指導	〇実態に応じて具体的な指導項目を決め、学年全体で指導できたか。 〇「報・連・相」を日常的に行い、生徒一人ひとりの状況について共通理解ができたか。 〇学校生活アンケートや、ケース会議、教育相談、その他学校の教育環境が、いじめ・仲間外れの早期発見に有効に機能したか。 〇いじめ・仲間外れの発生に関しては、発生の事実を迅速に職員に周知し共通理解のもと指導が行われ再発防止に的確に取り組むことができたか。			
学	安全	安心で安全な学校	〇生徒を認め、勇気づけ、ともに学び成長することに喜びを見いだす指導を実践できたか(認め、勇気づける教師の構えを持って指導に臨んだか) 〇一人一人の生徒の居場所づくり等について生徒とのコミュニケーションを十分とることができたか。 〇施設が安全で防災体制が整っているか。 〇本校の生徒の登下校が安全にできるよう指導することができたか(交通、不審者の対応等)	・前回できなかったことが出来るようになったり、わからなかったことがわかるようになったりと、生徒の成長が感じられる場面で、がんばりを認める言葉掛けを行った。 ・生徒が安心して過ごせるようになるには、まず職員の心身の健康と安全があつてこそ。職員同士のサポートは不十分。	A b	・引き続き、生徒一人ひとりの理解に努め、思いに共感し勇気づける職員集団として生徒とともにありたい。 ・副担任もクラスに必ず入るなど、サポート体制を充実させる。
		地域との連	〇参観日の授業評価が適切に行われ保護者の意見を吸収することができたか。 〇学校保護者アンケート等で保護者の率直な意見が聞けたか。 〇学年・学級PTAの運営を工夫し、保護者との連携を図ることができたか。 〇心を豊かにする交流が積極的にできるような指導はできたか。(伊那養、保育園、福祉施設)			
校運	地域との連	〇参観日の授業評価が適切に行われ保護者の意見を吸収することができたか。 〇学校保護者アンケート等で保護者の率直な意見が聞けたか。 〇学年・学級PTAの運営を工夫し、保護者との連携を図ることができたか。 〇心を豊かにする交流が積極的にできるような指導はできたか。(伊那養、保育園、福祉施設)	・伊那養推進委員会を立て、推進委員の生徒中心に、交流会を企画した。活動ができたこともあったが、多様性の理解につながるよう、お互いのコミュニケーションを促すなどした。 ・保護者とは連絡を密にとり、指導に活かしていくことができた。コロナによる制限が緩和され、地域での活動が積極的にできたと思う。	A a	・より交流を深められるよう、生徒に交流内容についてアイデアを出してもらおうようにしたい。	

営	携	適切な情報発信	○学校・学年・学級から積極的に必要な情報発信ができたか。 (紙面構成を工夫し、読んでみたくなる通信)	・学年通信の発行を行い、行事について、情報発信した。 ・生徒の様子を保護者が見てわかるように心がけた。オクレンジャーの配信や、巡視など対応が早かった。	A a	・これからも学校・学年・学級から積極的に必要な情報を発信していきたい。
	研 修	教職員研修システムの充実	○全校研究テーマ具現を共通の目標に、課題と手だてをもって公開授業ができたか。 ○「道徳科」の授業づくり及び評価について研修したか。 ○通常の職員会議を研修の場と位置づけ、学習指導・生徒指導・生徒理解を主としたか。 ○分かりやすい授業づくりのためにICT機器の積極的な活用を図ったか。 ○すべての生徒に学習の場を保障するための工夫を行ったか。 ○「自立した生徒」を育てるための家庭学習の在り方を1年間かけて探れたか。	・多くの職員が授業公開を実施し、さらにその授業を多くの職員方が参観した。お互いに学び合う場になった。職員同士で教材について学習カードや進め方など、毎回情報交換をしながら授業を行った。 ・グループ研究により道徳科の学習指導要領における指導目標や評価の観点を深く研究することができた。 ・クラスの授業に参加出来ない生徒について、オンライン配信を行ったが、課題やワークシートなどの配付が十分ではなかった。生徒が自ら家庭学習に取り組むような指導が不十分だった。	A a	・外部の指導者にご指導いただいたことをもとに、今後も研究を続けていく。 ・オンライン参加の生徒も同じ課題に取り組むことが出来るよう、ワークシートをデータでアップするなど、できるだけ対応に努める。
		豊かな人間性の育成を図る学校づくりの研究	○単元のまとまりの中で実現を図る、各教科の「見方・考え方」、ICT機器活用、学び合いを視点とした研究体制は有効であったか。 ○生徒理解のための研修ができたか。(事例研究や不応生徒の理解、UD研修等)	・職員会での生徒理解研修は、とても参考になった。 ・生徒理解の研修で、特性のある生徒への指導の仕方について理解することができた。 ・ICT活用について、研究が不十分だった。	B a	・今後も職員会での生徒理解を引き続き実施する。 ・ICT活用について、教科内でも定期的に検討し、効果的な活用法について探っていく。